

3 「親の学習」の指導者とは？（指導者の役割）

- 「親の学習」の指導者は、ファシリテーター（学習支援者）である。
- 社会的に望ましい子育てのあり方の結論を急ぐというよりは、参加者の感じたことや考えたことを共有し、肩の力を抜いて「ホンネ」と呼ばれるものに近いものを引き出すことができるかどうか鍵になる。
- どのような意見も出しやすい自由な雰囲気づくりが重要である。

親を対象とした「親が親として育ち、力をつけるための学習」の指導者は、埼玉県が実施する「親の学習」指導者養成講座の修了者の方など、中学生や高校生を対象とした「親になるため学習」の指導者は、中学校の技術・家庭科、高等学校の家庭科の先生方などです。

最近、至るところで「家庭の持つ子どもの養育能力が低下しているのではないか」といったことが指摘されています。指導者となっていただく方々も、さまざまなご意見を持っていらっしゃる方も多いと思います。

しかしながら、前述した通り、「親の学習」プログラムの背景となる基本的な考え方としては、あるひとつの「正しい子育てのあり方」を参加者に提示し、「唯一のこのお手本のように子育てをなささい」と押しつけるものではありません。複雑な社会的背景やそれぞれの家庭環境の事情に応じて、多くの親と意見交換をしながら、まずは子育てに関して「どのようなやり方や考え方があるか」を知り、自分の家庭ではどのような子育てがより良いのかを「じっくりと考える機会を持ってもらう」というところにあります。

したがって、プログラムの中で指導者は「ファシリテーター（学習支援者）」と呼ばれます。社会的に望ましい子育てのあり方の結論を急ぐというよりは、「参加型学習」を通じて、感じたこと、考えたことなどを共有し、肩の力を抜いて「ホンネ」と呼ばれるものに近いものを引き出すことができるかどうか鍵になってきます。つまり、どのような意見も出しやすい自由な雰囲気づくりが重要です。

そして、場合によっては、その回のプログラムの目標を達成するために、参加者全体の特徴や事情、あるいは参加者のステージを考慮して、ひな形となるプログラムをうまく応用して活用することも求められます。参加者全体が、何かひとつでも子育てのヒントのお土産をもらったと思えるような展開を目指しましょう。